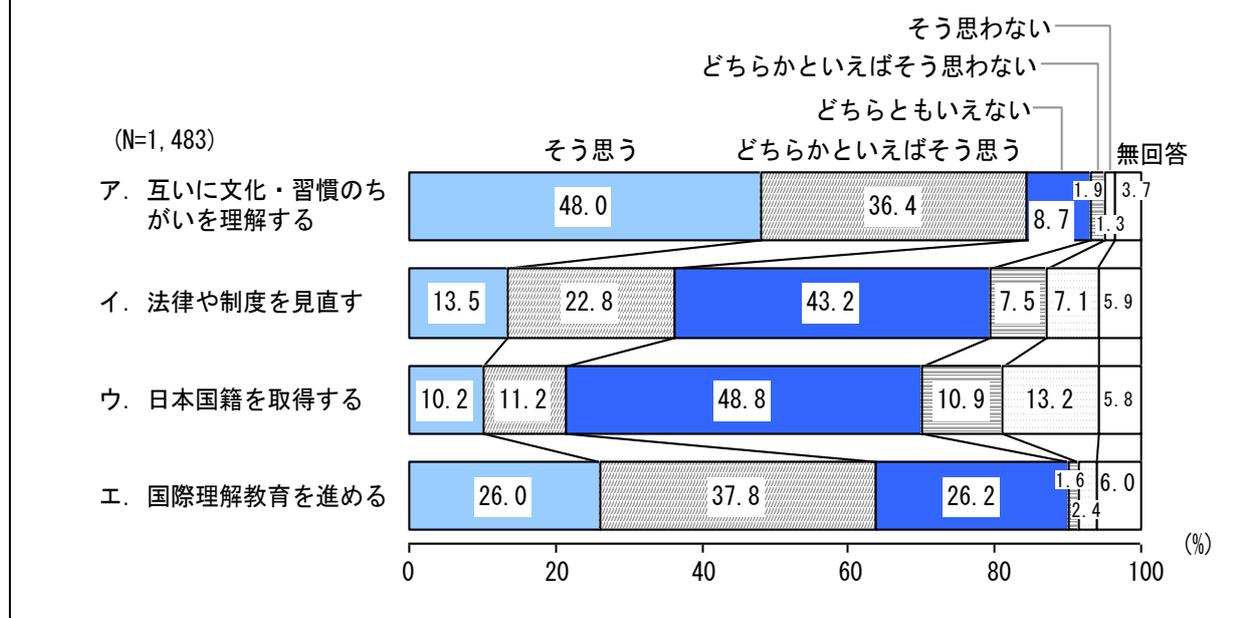


7 日本に住む外国人の人権について

(1) 日本に住む外国人の人権を守ることにする意見に対する考え方

問 27 日本に住む外国人の人権を守るために次のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。(ア～エのそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

【図 7-1 日本に住む外国人の人権を守ることにする意見に対する考え方】



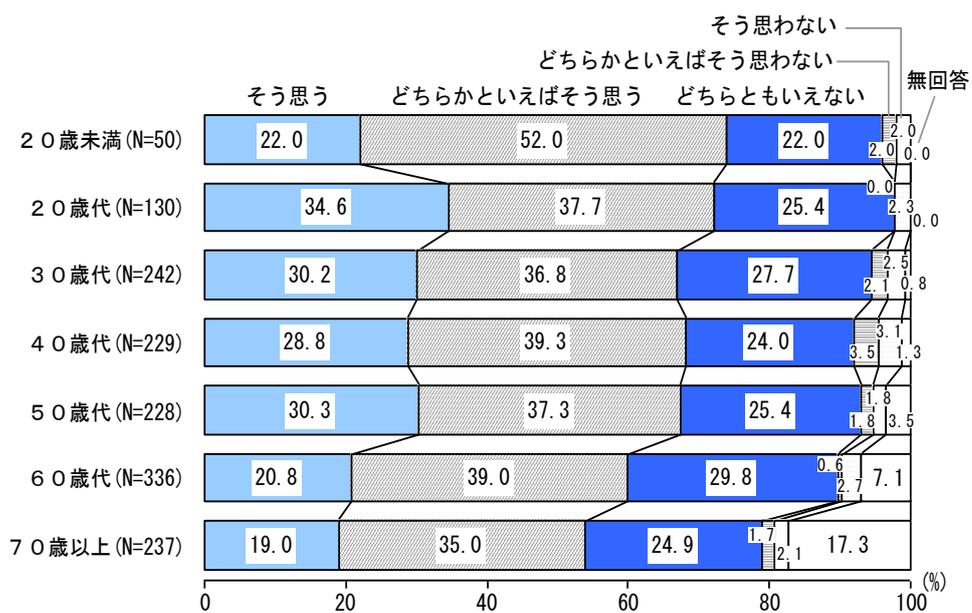
日本に住む外国人の人権を守ることにする意見に対する市民の考え方をみると、“肯定派”が“否定派”と比べ割合が高い項目は、「ア. 互いに文化・習慣のちがいを理解する」(84.4%)、「エ. 国際理解教育を進める」(63.8%)となっており、過半数を占めている。

「イ. 法律や制度を見直す」では、「どちらともいえない」(43.2%)が最も多く、“肯定派”(36.3%)が“否定派”(14.6%)に比べ割合が高い。

「ウ. 日本国籍を取得する」では、「どちらともいえない」(48.8%)が半数近くを占めており、“否定派”(24.1%)が“肯定派”(21.4%)に比べ割合がわずかに高くなっている。

(図 7-1)

【図 7-1-1 年代別 エ. 国際理解教育を進める】

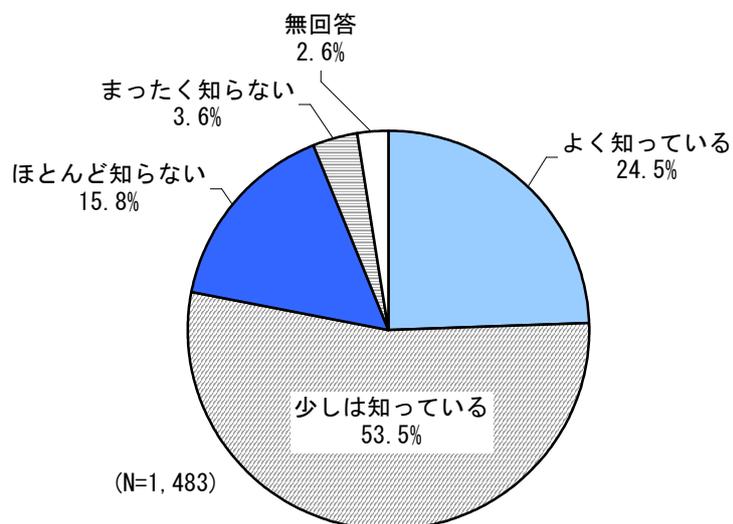


「エ. 国際理解教育を進める」を年代別で見ると、各年代で“肯定派”が過半数を占めているが、年代が上がるにつれて割合が低下している。（図 7-1-1）

(2) 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況

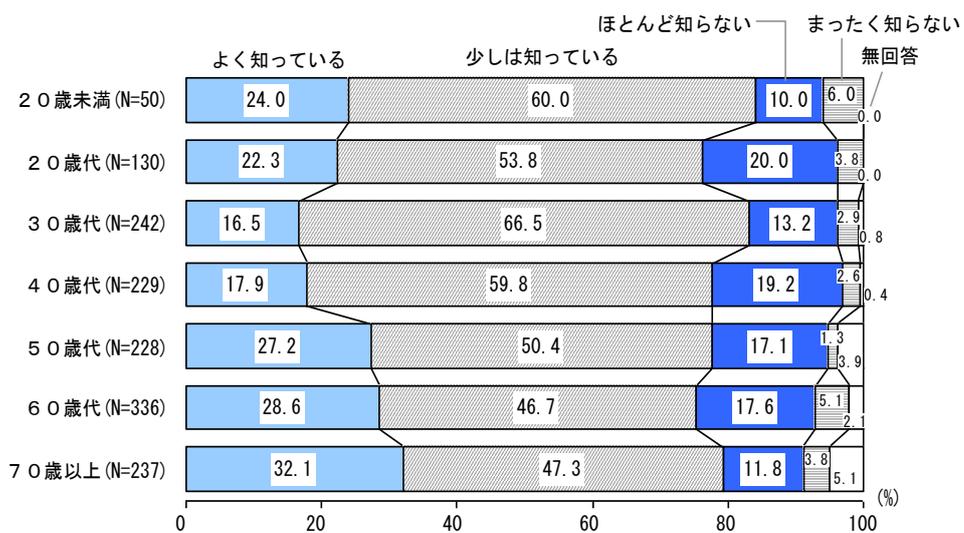
問 28 あなたは、戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことを知っていますか。(あてはまる番号1つに○)

【図 7-2 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】



戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことについて、“知っている”（「よく知っている」と「少しは知っている」を合わせた数）が78.0%で、そのうち「少しは知っている」が53.5%を占めている。これに対し“知らない”（「まったく知らない」と「ほとんど知らない」を合わせた数）は19.4%となっている。（図 7-2）

【図 7-2-1 年代別 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】

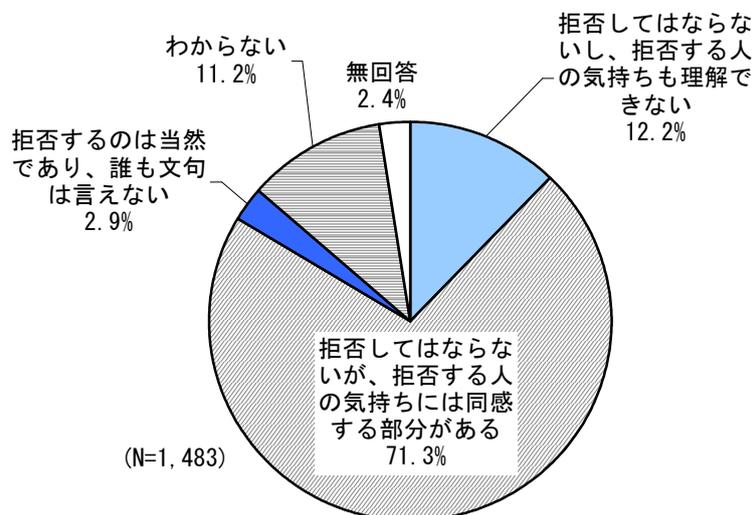


戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことについて年代別で見ると、各年代で“知っている”が7割以上を占めており、特に20歳未満（84.0%）と30歳代（83.0%）が8割台と高い。（図 7-2-1）

(3) 日本人が外国人に部屋を貸すことを拒否することに対する考え方

問 29 外国人に家や部屋（マンションやアパート・文化住宅など）を貸すのを拒否する日本人がいます。あなたは、どのように思いますか。（あてはまる番号1つに○）

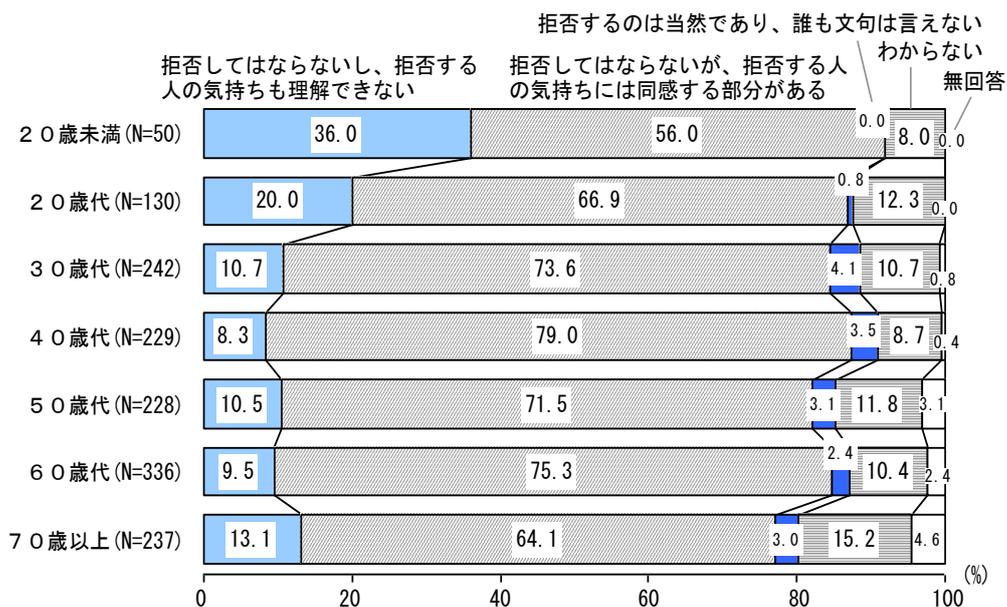
【図 7-3 日本人が外国人に部屋を貸すことを拒否することに対する考え方】



日本人が外国人に部屋を貸すことを拒否することについて、「拒否してはならないが、拒否する人の気持ちには同感する部分がある」が71.3%と最も高くなっている。

また、「拒否してはならないし、拒否する人の気持ちも理解できない」が12.2%、「拒否するのは当然であり、誰も文句は言えない」が2.9%となっている。（図 7-3）

【図 7-3-1 年代別 日本人が外国人に部屋を貸すことを拒否することに対する考え方】



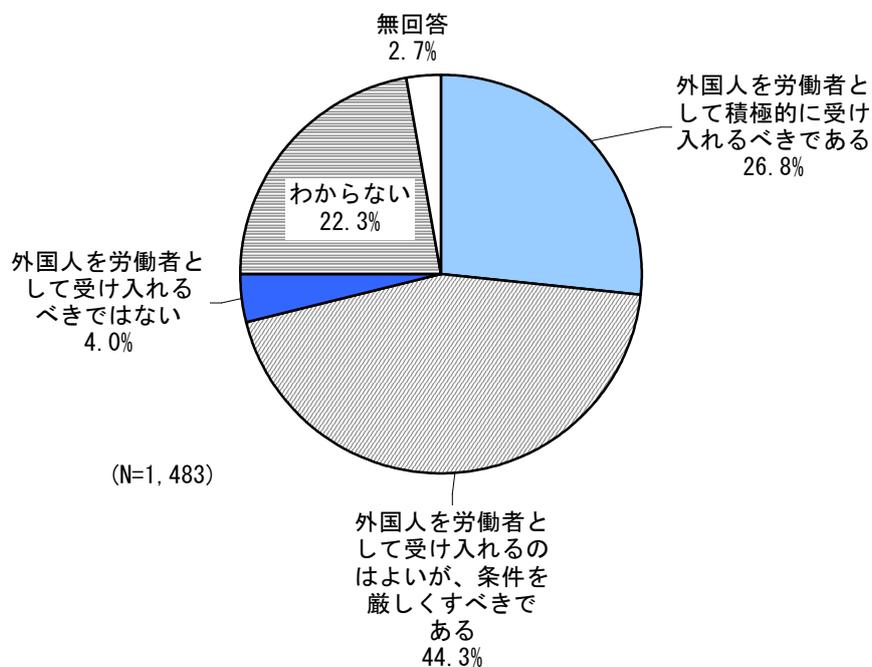
日本人が外国人に部屋を貸すことを拒否することについて、各年代で「拒否してはならないが、拒否する人の気持ちには同感する部分がある」が過半数を占めている。

また、「拒否してはならないし、拒否する人の気持ちも理解できない」では、20歳未満(36.0%)が他の年代と比べて割合が高く、年代が上がるにつれて割合が低下している。(図 7-3-1)

(4) 外国人を労働者として受け入れることに対する考え方

問 30 現在、日本には多くの外国人が働きに来ています。あなたは、外国人を労働者として受け入れることについてどう思いますか。(あてはまる番号1つに○)

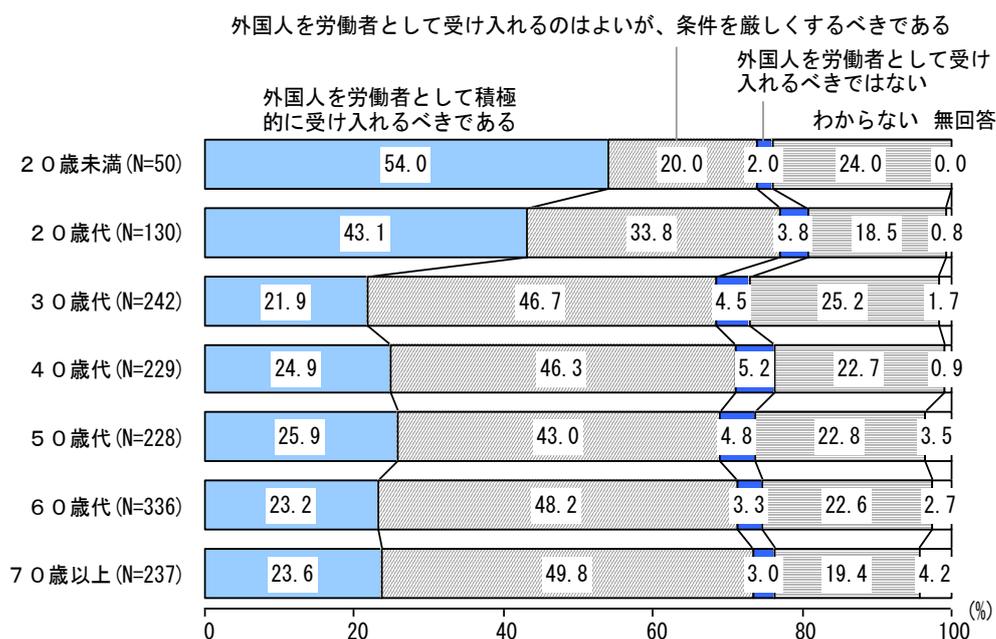
【図 7-4 外国人を労働者として受け入れることに対する考え方】



外国人を労働者として受け入れることについて、「外国人を労働者として受け入れるのはよいが、条件を厳しくすべきである」が44.3%と最も高く、次いで「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」が26.8%となっている。

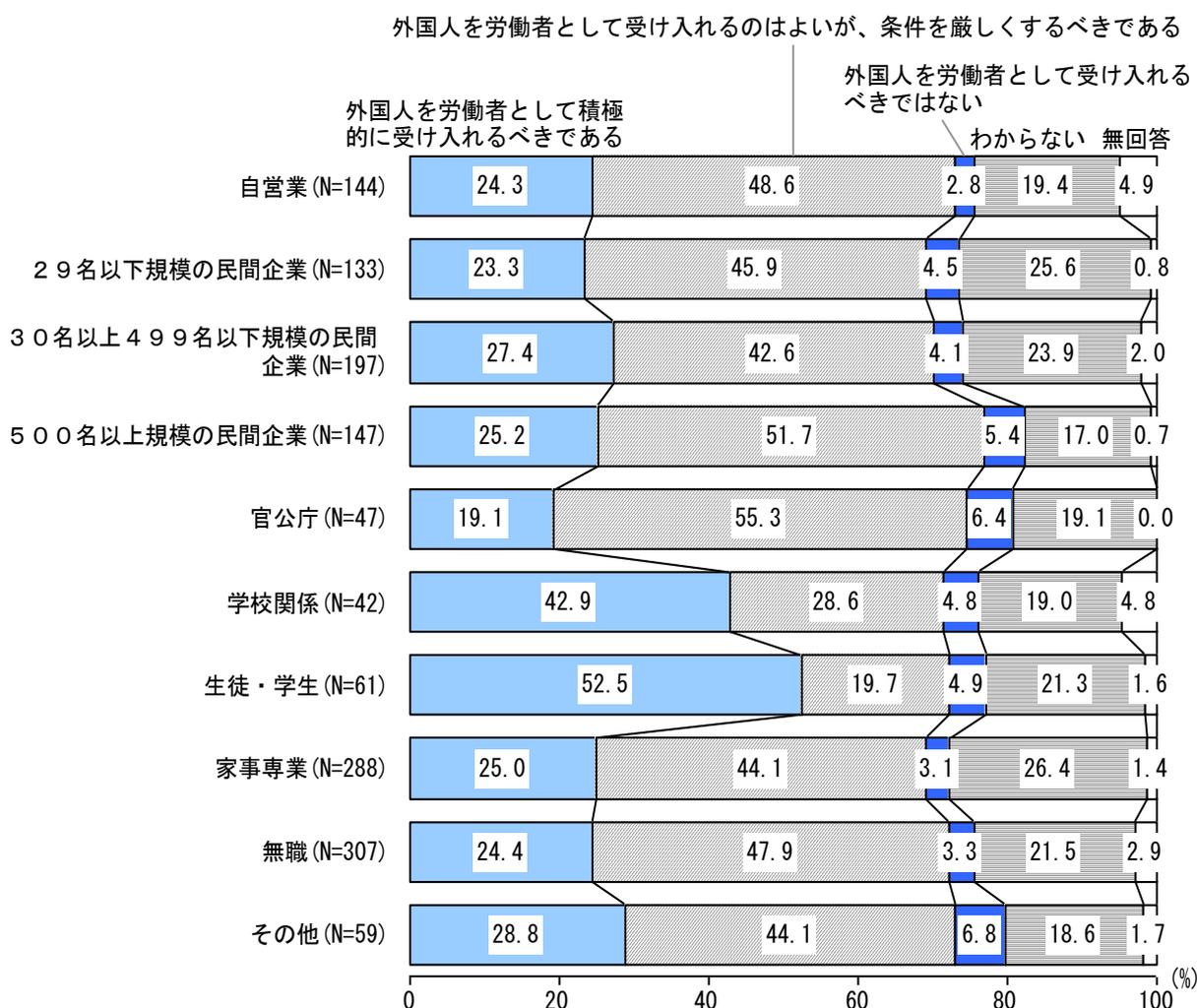
また、「外国人を労働者として受け入れるべきではない」では4.0%となっている。(図 7-4)

【図 7-4-1 年代別 外国人を労働者として受け入れることに対する考え方】



外国人を労働者として受け入れることについて年代別でみると、20歳代以下の年代では「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」が4割以上を占めて最も高くなっているが、30歳代以上の年代では2割台と低下し、「外国人を労働者として受け入れるのはよいが、条件を厳しくするべきである」が30歳代以上の年代で4割台を占めて最も高くなっている。(図 7-4-1)

【図 7-4-2 職業別 外国人を労働者として受け入れることに対する考え方】



外国人を労働者として受け入れることについて職業別で見ると、学校関係や生徒・学生では、「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」が4割以上を占めており、特に生徒・学生では52.5%と高くなっている。

自営業や民間企業、官公庁、家事専業、無職では「外国人を労働者として受け入れるのはよいが、条件を厳しくするべきである」が4割以上を占めており、特に官公庁では55.3%と高くなっている。(図 7-4-2)